

平成30年度

経済建設常任委員会

行政視察報告書

○視察期間 平成30年10月2日～3日

○視察先および視察テーマ

- ・羽幌町『はぼろ温泉の取り組みについて』
- ・増毛町『鉄道廃線の増毛駅舎を活用した地域ブランド形成プロジェクトについて』

○参加委員

委員長	奥村 英俊
副委員長	川口 京二
委員	佐々木 寿
	東川 孝義
	佐久間 誠
	川村 幸栄

経済建設常任委員会の行政視察について報告をいたします。

日程は10月2日から3日までの2日間で2自治体2か所、視察を行いました。

■ 羽幌町「はぼろ温泉の取り組みについて」

羽幌町では「はぼろ温泉の取り組みについて」羽幌町商工観光課の方の説明を受け、施設の利用状況及び経営状況については、平成6年12月の開業後約12年間、第三セクターへの管理委託により運営を行ってきたものの、団体利用からビジネス利用への利用形態の変化や、近隣へ同様の温泉宿泊施設が開業したこと等により、利用客が減少、その結果、売上高が減少し、数年後の経営状況の悪化が見込まれたため、民間のノウハウや発想を活かした効率的な施設運営が必要と判断し、平成18年4月より指定管理者による、管理運営に移行することとし、1期目10年は指定管理料が無い中約8万人前後の利用客で推移してきたがサービス、料理への満足度の低下や施設の老朽化が要因となって、主に日帰り利用者が減少している状況になり、平成28年4月の第2期からは、集客の柱となる料理の改善を主な目的として、2,400万円の指定管理料を拠出した結果、レストランメニューや宴会プラン、宿泊夕食プランの改善が図られ、従業員教育も、アンビックスグループでの研修に積極的に取り組むなどした結果、着実にサービスの向上が図られたことにより、前年比910万円増の3億2,100万円の収入となり、650万円の内部留保増となったとの事でした。



「はぼろ温泉」にて温浴施設のあり方を学ぶ

今後の課題としては、施設運営に必要なとなる人材の確保、特に調理員の確保やサービス向上のために必要となる

それらの人材の確保・育成と温泉施設をはじめとした老朽化した施設の改修に係る多額の財源確保が大きな課題との事でした。

委員間の意見交換では、羽幌町は人口7千人余りでありながら、「はぼろ温泉サンセットプラザ」は温泉地に適した環境に恵まれ、年間8万人前後の集客をもって運営を行い、町をあげて取り組んでいることが伺われました。開業25周年を経過した現在でも館内はとてもきれいで、施設や機材等の老朽化が進む中、将来に向けた施設改修計画と施設運営の目標を定めている点や、さらには、顧客満足度へ向けての食事の質の向上や従業員のサービス提供向上などについて取り組んでいるといった点について学ぶことができました。

指定管理者である民間の株式会社アンビックスは、町の担当者との定期的な意

見交換により課題を共有しながら、多くのホテル事業を行っている事もあり、そのノウハウを活かし、観光客をメインに考えながら施設改修や設備更新を計画的に図り、従業員教育などもグループ内での研修体制を取るなど指定管理者のメリットを活かした経営と平成 28 年からの指定管理料がサービスの改善と向上に確実に活かされていることが伺えました。

当市においても「なよろ温泉サンプラーの整備」に向けて、本年度は基本設計が進められており、ホテルが進むべき目標に加えて、設備、営業、調理、接客、清掃などに向けての対応など、参考にできる内容が多く現場へも伝えていきたいと思えます。

■ 増毛町「鉄道廃線の増毛駅舎を活用した地域ブランド形成プロジェクトについて」

次に増毛町では、平成 27 年の JR 留萌本線の留萌-増毛間の廃線を乗り越えて、鉄道遺産を活用した「鉄道廃線の増毛駅舎を活用した地域ブランド形成プロジェクト」について町長、議会議長、企画財政課のみなさんから話を聞き、意見交換させていただきました。

事業の開始にあたっては「地方創生拠点整備交付金」の採択を受け、交付金 3,599 万円を含む 7,198 万円の事業費で、この間合理化で減築されていた増毛



増毛町民の願いが込められたシンボル塔「テルミヌスへの願い」

駅舎の復元と増築、広場の整備を、交付金 325 万円を含む 650 万円の事業費で終着駅であった増毛駅の歴史と賑わいの歴史のシンボル塔「テルミヌスへの願い」の制作。交付金 144 万円を含む 288 万円の事業費で地域ブランド創造に向けた資源の発掘、観光ガイド養成、歴史文化資産の再発見を狙いとした「歴史文化資産を活かしたまちづくりを考える」セミナーの開催をしています。また、駅舎完成後の今年の 4 月に完成記念の「倍賞千恵子講演会」、オープニングセレモニーの開催、5 月に廃線路を歩く健康ウォーキング、「増毛春の味まつり」などの開催により多くの来場者を得て賑わいを見せているとの事でした。

賑わい創出の具体策として、若い人たちへのアプローチとしての「婚活」の実施、国稀酒造の協力により新しい蔵をつくり試飲ができるようにする、冬にどのようにお客さんに来てもらうか、「冬の食」についての研究課題はあるが、人気寿司店は地元の人は混んでいて食べられなかったり、「秋の味まつり」や「春の味まつり」などに

は大型バスが列を作る状況もあり、年間の入込客数の目標を 30 万人としています。

JR留萌本線の留萌-増毛間の廃止に伴う報道などもあり、ふるさと納税でも 29 年度 5 億 5,000 万円の町外の方からの応援いただいていること。札幌や東京の百貨店で増毛産の果物のPR、セイコーマートとの連携による増毛産洋ナシを使った製品の検討と、町内の青年達が企画したオープニングセレモニーでは「町民ら 100 人によるロングテープカット」を実施したり、町民有志の青年部協働隊が「トロッコ試乗会」を行うなどの協力体制もできています。また、クラウドファンディングによって旧増毛小学校の屋根のふき替えや旧富田屋旅館の修繕を行っており、町民自らも景観保持に協力してくれているというお話を伺うことができました。



逆転の発想で観光振興に活用されている「増毛駅」

委員間の意見交換でも、増毛町が築いてきたこれまでの歴史や自然、育んできた文化、人間関係など、増毛町の持つ多くの財産を活かし、JR留萌本線（留萌-増毛）の廃止という街にとって大きな痛手から、「逆転の発想」で中心市街地を活性化させ、これまで以上の賑わいを作り出そうという意気込みと増毛町全体の魅力向上に努めたいという気持ちが町長の発言や果樹農家である議長が「ここ（増毛）へ来て、こだわって作り続けてきた果物を食べてもらうことが重要」という発言からもはっきりと伝わってきたことと、当市においても、これまでの歴史や自然、育んできた文化、人間関係などの多くの財産のポテンシャルをいかに高め活かすかが求められると話し合ったところです。

以上、経済建設常任委員会の視察報告といたします。